

れるべきであると考え、妥当な年間の日数として13地区で10日以内、8地区で11～20日、6地区で21～30日をあげていた。

現状の救急救命士の病院実習に対する満足度は12地区で5段階評価の3以上であったが、2以下とする地区も12あった。

核となる医師が存在している地域は10地区、いない～わからないが21地区。

以上集計を通じ、歴然たる地域格差の存在と、法制化に対する強い希望が印象に残った。

Ⅱ. 県内5つの地区における「救急隊員の病院実習の現状と問題点」について

1 「佐渡地区における救急隊員の病院実習の現状と問題点」

(1) 救急隊員の立場から

前田 一

佐渡消防本部

佐渡地区は、現在7名の救急救命士がおりますが、来年度から高規格救急車を運用する佐渡消防本部の3名で、佐渡総合病院の岩田副院長のご配慮により、今年の4月から順次、就業前実習を行い、又、6月からは生涯実習として、救急外来にて勤務時間中に月に3回行えるようにしていただきました。

病院スタッフの皆さんは、救命士に対してどう対応すれば良いのか分からなかったようで、お互いに戸惑う事が多かったため、病院スタッフとの理解を深め、より一層の信頼関係を築くため、勉強会も行いました。

今後は、「中間報告」にもあるように、県レベルでのメディカルコントロール協議会を設立していただき、実習内容についても、基準を設けて実施するのが良いのではないかと思います。

佐渡では、高規格救急車の運用に向け、病院の理解と協力をいただき、救命士としての知識と技術の向上を図っているところですが、これまで遅れた分、早く皆様と同じレベルになりたいと思います。

(2) 病院側の立場から

岩田 文英

佐渡総合病院内科

佐渡地区の救急を担う消防署は町村の関係で四つに分かれています。人口は約7万2000人であり、65歳以上の人口割合が34%を占める地域です。以前より救急救命士の方はいたのですが、高規格救急車の配備がされていず組織立った救急隊員の病院実習もなく救急救命士の活躍の場もありませんでした。漸く平成15年度に高規格救急車が配備されることになり、当院でも今春より救急隊員の就業前病院実習の引き受けが始まったところです。具体的なカリキュラムは以前より当院で引き受けていた新潟医療技術専門学校救急救命士科の学生の夏季実習に準じてなるべく様々なセクションでの実習や見学ができるようくみ、気管挿管手技は気管支鏡を用いての気管挿管のトレーニングをしております。指導医師や看護師などの時間的な余裕がないなど、また婦人科や精神科関連では患者さんの同意が得られず最初から実習項目に組めないなどの制約もありスムーズに行かない点もあるのが実情です。

2 東蒲原地区における救急隊員の病院実習の現状と問題点

(1) 救急隊員の立場から

救命士 寺久保幹男

東蒲原広域消防本部

東蒲原地区は、阿賀野川沿の東部に位置し、福島県(西会津)との県境を接し、2町2村で構成され、山間過疎高齢化地域である。

病院実習は、現在は救急救命士のみが実施しており、管内では唯一の病院である県立津川病院で実施させてもらっている。

病院実習の内容は、一口で言えば看護師に就いて回る実習が主である。

問題点は、医師に就いて行う実習が少ない、救急専門医・麻酔科医及び救急医療への先進的な医師が少ない、症例が少ない、症例検討会など多くあり、一消防本部と病院だけで解決するのは、難